

福岡大学病院

研修医 麻生 頌 2016年5月

福岡大学病院地域医療研修プログラムとして5月にお世話になりました、研修医2年目の麻生 頌（アソウ ショウ）と申します。1ヶ月間という限られた期間の中で、出水総合医療センターを中心に、高尾野診療所・野田診療所・保健センター・上場診療所にて研修させて頂き、大変お世話になりました。関係者の皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。

私は福岡県出身で、中学高校は長崎県・大学は愛知県と転々としており、また趣味の旅行で各地に遊びに行きましたが、何故か九州の中で鹿児島のみを踏んだことがなく、研修も勿論のこと、研修外の活動も楽しみに出水を訪れました。最初の印象としては、朝に道を歩けば学生さんが挨拶してくれるし、焼酎は安いしで、本当に素晴らしい町だと感じました。

さて、研修についてですが、何もかもが目新しく印象深いものでしたが、字数も限られておりますし一部分をピックアップさせて頂きます。

まずは、各々3日間しか研修できませんでしたが高尾野・野田診療所です。高尾野診療所では、これまでの1年間で経験した数倍の外来を、たった3日間で経験させて頂きました。野田診療所でも同じく、数倍の手技を経験させて頂き、非常に濃厚な研修をさせて頂きました。たった6日間の研修でしたが、私の今後へのモチベーションを上げて下さった、非常に有意義な研修でした。

院内研修では消化器内科研修を中心に、看護・臨床検査・臨床工学・リハビリテーション・医療安全管理・地域医療連携などの講義や体験をさせて頂きました。想像していたよりも多くの内視鏡検査や治療を、限られた医療スタッフで素早く、しかし正確に行われていたのが印象的でした。また、お忙しい中でも検査手技や結果の判断方法を丁寧に教えて頂き、非常に勉強になりました。また、各部署の講義・体験では改めて他職種の実際の現場を知ることができ、今後の医師としての生活に活かすことのできる非常に有意義なものでした。

上場診療所では本当のへき地医療を垣間見ることが出来ました。問診と身体診察の重要性を再確認しただけではなく、患者家族から果ては診療所に訪れない地域住民の方にまで配慮されていたことを目の当たりにし、所変われば必要とされる医療の形も変わるということを知りました。また、へき地の高齢者の方は元気な方が多い印象で、その裏には陰ながら努力されている医療関係者が存在することを知り、感動を覚えました。

最後になりましたが、大変お忙しい中、時間を割いて丁寧に指導して下さいました皆様方に、重ねて御礼申し上げます。今後の医師人生を変えるような体験を、たくさんさせて頂きました。今度は、鶴を見ることが出来る時期に伺いたいと思います。